

広島市豪雨災害伝承館へ



2月16日（日）大河学区自主防災会連合会主催による自主防研修会が広島市豪雨災害伝承館で開催され、24名が参加しました。

伝承館は、2014年8月20日未明に安佐南区などで、死者77人（災害関連死含む）の人的被害と、住宅全壊170棟、道路・橋梁・河川堤防1079件の物的被害をもたらした豪雨災害の状況をわかりやすく伝える施設として、復興と伝承をテーマに2023年9月1日安佐南区八木に開館しました。

災害の展示のほか、被災者による語り継ぎや、防災や減災についての研修、かまどベンチでの炊き出しなどを体験できます。防災機材倉庫やAED研修機材、病院仕様のコンセントもあり、災害時の避難施設・病院としても使用できます。

大河地区には土砂災害危険区域がいくつもあります。

災害が起きると、「まさか自分の住んでいるところで災害が起きるとは...」「自分が災害にあうなんて...」と語られることが繰り返されています。

異常な雨が降り続いていたりするときには、どういう行動をとればよいかわかっていてもつい避難しなくてもいい理由を探してしまいます。「そのうち雨は止むかも」「周りはまだ避難していない...」そうやって躊躇しているうちに避難できなくなるかもしれません。日ごろからお互いに声掛けをして避難を促しあうことが大切です。



平成26年8月豪雨での被害

災害への備え

- 1 地域の危険地域を調べる
- 2 防災情報を入手する
- 3 避難場所を調べる
- 4 家庭内備蓄を確認
- 5 非常持ち出し品を準備
- 6 室内を安全な空間に
- 7 家の周囲の安全確認
- 8 火災を防ぐ
- 9 地域で防災に取り組む

出汐に、地域みんなが集う場所 「ヤマヤマミタ」がオープンします！



現在、出汐2丁目中電工業本社跡地に、新しい交流広場「ヤマヤマミタ」が建設中です。「ヤマヤマミタ」とは、「出汐」の文字を分解して名づけられたもの。黄金山と比治山を模した2つの小さな「山」からなる広場であることにも由来します。

中電工業が自社の敷地を地域の誰でも利用できるように開放し、みんなの笑顔が集まる場所として活用する試みを進めています。緑豊かな広場にはキッチンカーを呼び、ウッドデッキや木陰で休憩できる空間になる予定です。



NEW

2025年4月オープン予定

これから、地域と協力したイベントなども企画していこうと考えているとのこと。周辺には学校や企業なども多く、さまざまな分野とコラボレーションした取り組みも期待されます。

大人たちの新たなランチスポットとして、また子どもたちのちょっとした遊び場としてもこれから活躍しそうです。

編集後記

LMOの協力で地域行事が活性化し、町がますますにぎやかになりそうですね！

土本由美子・中澤通世
浜根千津子・宮尾邦子
井上奈津恵

いきいき大河

～社協だより～

発行

大河地区社会福祉協議会

会長 神出恭子

編集 広報部会

責任者 中澤通世

2025（令和7）年3月 第35号



エルモ おおこうLMO開設！！



つながる おおこう



おおこうLMO
神出恭子会長

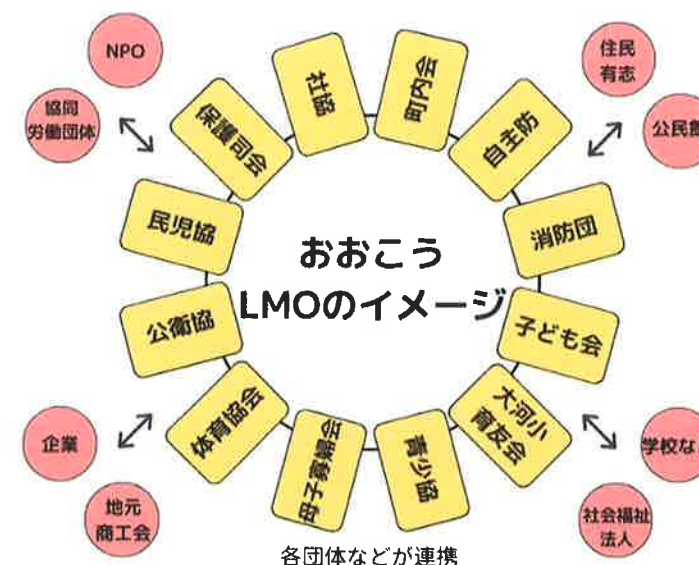
令和6年8月から、おおこうLMO（エルモ）が発足しました。しかし、LMOとは何なのか、どんなメリットがあるのかなど、わからないことがある方も多いのではないのでしょうか。

そこで、おおこうLMO 神出恭子会長にお話を伺いました。

エルモ LMOってなに？

少子高齢化などの社会の変化により、地域活動に参加する人は限られてきており、このままではさまざまな機能が低下してしまいます。そこで広島市が立ち上げたのがひろしまLMOです。

LMOとはLocal Management Organizationの略で、地区社協などが中心になり地域の団体と連携して、地域課題の解決に取り組む運営組織のことです。大河地区でも自分たちのまちは自分たちで創り、守っていくためにこの取り組みを始めました。何度も話し合いを重ね、令和6年8月27日に広島市より認定を受けました。



どんなメリットがあるの？

市から認定を受けることにより助成金が入り、高齢者・子育て・防災・環境・情報通信などの活動に分配することができます。その他、各公的機関や企業とも連携して活動できます。また、支え手にもさまざまな形で還元していきます。

LMOは始まったばかりで地域にもまだなじみが薄いのですが、構成団体や、多世代の皆さま方と共に大河のまちを活性化していきたいと思っています。

現在行われている行事にも、LMOの助成を受けているものがたくさんあります。次面以降に紹介している事にLMOマークを付けているので、チェックしてみてくださいね。



第67回町民体育祭



大河学区体育協会
川野洋会長

10月27日(日)大河小学校校庭で、第67回町民体育祭が開催されました。

赤組は、北大河町・南大河町・旭2丁目・山城町、白組は、出汐町・旭1丁目・霞町の紅白対抗戦です。

子どもからお年寄りまで、競技をする人、声援を送る人、景品を手にする人、それぞれに楽しい思い出を作りました。今年は、飲み物・いなり寿司・うどんの販売も復活し、より楽しい体育祭となりました。

白の勝ち!



大河健康教室

1月26日(日)大河公民館で、大河地区社会福祉協議会主催による、一人暮らしの高齢者を対象とした健康教室が開催され、39名が参加しました。

テーマは、「煌めくサックスサウンドで懐メロや青春時代の歌を歌おう!」

演奏は、大学時代の軽音楽部仲間が定年後の2011年に結成したサックス・アンサンブルバンド「ファニー・フレンズ」。事前に参加者からリクエストがあった昭和23年から平成元年までのヒット曲17曲を歌いあげ、最後に童謡「ふるさと」で締めました。

演奏の前には、歌った歌手や歌ができたいきさつ、時代背景などの説明があり、なつかしい時がよみがえったようです。

感想 サックスの音色が大好き!
大きな声で歌えて楽しかった
サックスの迫力で歌えたのは幸せ

最後に、災害時の炊き出しの訓練を兼ねてボランティアのみなさんが作ったおむすびや豚汁を食べて英気を養いました。今年1年元気で過ごせますように!!



大河とんど祭り2025

～燃えろよとんど 子どもの笑顔 大河の絆～

1月12日(日)大河小学校で「とんど祭り」が開催され、700名あまりが参加しました。

オープニングは光清学園の和太鼓クラブと大河体協新体操クラブによる演奏・演技。高学年の子どもたちにより平和公園の平和の灯で点火されると、書初めやしめ飾りが勢いよく燃え上がりました。

ぜんざい・綿菓子・ポップコーンのコーナーには多くの人々が列を作っていました。



第4回 キッズカフェおおこう

12月21日(土)大河公民館にて、第4回「キッズカフェおおこう」が大河地区社会福祉協議会主催のもと開催されました。

インフルエンザ等の流行によりキャンセルもありましたが、50名の小学生と9名の翠町中学校絆実行委員会ボランティアが参加しました。

ゲームコーナーには、今までのポッチャ・かるた・ストラックアウトに加え、新たにボールヒットゲーム(モルック)やラダーボールゲームがありました。その他にもミニシアターや工作コーナーなど、思い思いに楽しみました。

遊んだ後は地元で採れた無農薬野菜入りのカレーと手作りゼリーを皆で食べました!



大河小学校 昔遊びの会

11月28日(木)大河小学校の体育館で「昔遊びの会」が開催され、1年生61名が大人22名(各町内会より出席)から手ほどきを受けました。

あやとり・お手玉・おはじき・けん玉・コマ回しと5つのブースを、10~12人のグループで回りました。あやとりとコマは学校で共同購入した自分の物で、コマには自分たちで絵付けをしました。みんな生活科の時間や休憩時間に練習したそうです。

子どもたちに感想を聞くと、「とても楽しかった」「コマ回しが難しかった」と言っていました。

最後に1年生全員でダンス『わたしの一番かわいいところ』を披露してくれ、参加した大人たちも童心に返り楽しみました。

